

29年11月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成29年 11月1日～ 29年11月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は44社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
仕入動向	国産材	21.4	△ 7.1	△ 6.1
	外材	10.3	1.3	△ 9.5
販売動向	国産材	8.6	4.3	△ 9.1
	外材	11.5	△ 1.3	△ 6.8
在庫動向	国産材	7.4	△ 7.4	△ 4.7
	外材	6.4	△ 10.3	△ 5.6

・国産材の仕入動向は11月の増加から12月、1月は減少に。外材は11月、12月の増加から1月は減少に。

・国産材の販売動向は11月、12月の増加から1月は減少に。外材は11月の増加から12月、1月は減少に。

・在庫動向は国産材、外材とも11月の増加から12月、1月は減少に。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月
スギ正角(グリーン)	0.0	0.0	△ 2.3
スギ正角(KD)	5.8	7.7	△ 2.1
ヒノキ正角	7.1	5.4	△ 1.9
ヒノキ土台角	14.8	3.7	△ 2.0
米ツガ正角(現地挽)	20.0	8.0	2.0
米ツガ防腐土台角	14.6	8.3	4.2
米ツガ割物(現地挽)	18.8	8.3	4.2
米マツ平角	41.1	21.4	11.5
北洋アカマツタルキ(現地挽)	12.5	3.1	△ 1.7
ホワイトウッド集成管柱	5.2	8.6	3.7
レッドウッド集成平角	27.6	15.5	3.6
型枠合板(輸入)	33.9	30.4	15.4
針葉樹構造用合板	30.8	22.0	8.7
針葉樹構造用合板(厚物)	28.8	24.0	13.0

・スギ正角の価格動向はグリーン材、KD材とも保合。

・ヒノキは正角、土台角とも保合。

・米ツガは正角(現地挽き)、土台角、割物(現地挽き)とも保合。

・米マツ平角は強含み。

・北洋アカマツタルキ保合。

・WW集成管柱は保合。RW集成平角は強保合。

・型枠合板(輸入)、針葉樹構造用合板とも強含み。